



ゴミ拾いからカンボジアに小学校建設まで。
チャラ系ゆとり世代が本気で“奉仕活動”に精を出す理由とは？

なぜかギャル男はボロ

大学生サークルの間でボランティア意識が高まる一方、渋谷を中心とした高校生のイベントサークルにも同じ意識が広まっている。高校生サークル3000人が集結する「D・1グランプリ」や今年8月に開催された「LOVE SUNSHINE」の運営に携わるギャル男系サークル、インジェクションは、イベントの一環として渋谷の清掃活動を行っている。「イベントにきた高校生のギャル男たちに声をかけて、渋谷のゴミ

インジェクション
渋谷のゴミ拾い、ボイ捨て禁止運動など
ボイ捨てするヤツはマジでカッコ悪い！

拾いをやった。やつは俺らがいつも避んでいる街だから汚いのイヤだし。ゴミを拾っていると、タバコの吸い殻がかなり多いことに気がついた。ボイ捨てでカッコ悪いな。だから、渋谷でボイ捨て禁止運動もやるようになった」

大学生に比べると、小規模な活動だが、彼らの「俺ら渋谷が好きだから」という気持ちに嘘はない。「夢中になれることが見つからない高校生たちに、仲間と一緒にゴミ

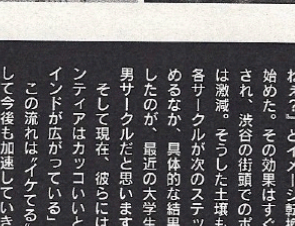


結果、街が少しでもキレイになって、みんなが「ピース」になれる。そんな気持ちでみんな活動している（代表の石塚

徹くん・早稲田大学3年生）同サークルでは、イベントのほかに湘南のビーチクリーンや救命士の資格取得の勉強会などを定

期的に行っているという。「僕自身はすでに救命士の資格を取得して、渋谷の消防団に最年少団員として所属しています。最初は、金髪にピアスをつけた外見に引いていた消防団の大人たちも、ゴミ拾いや消防団の活動を見て感心してくれるんですね。で、地域の人がたから。ありがたうって言葉がもらえる。こうしたことから「こんな若者もいるんだ」と印象が良くなっていくのが実感できるのうれしい！」

見た目はギャル男でも、中身は奉仕の心を持った若者。そんな彼らの活動は、渋谷の人たちに認められつつあるようだ。



「今年3月に開催したイベントでは、渋谷の各エリアのゴミ拾いをみんなで行って、盛り上がりましてね」と話す東海林くん



池田隼人氏

ボランティアがカッコいいに変化

「今、ギャルやギャル男のボランティア活動には、レイプ事件や毒害いイベントサークル「スープリ」の影響がある」と語るのは、渋谷の重鎮的存在でギャルイベントの仕掛人、池田隼人氏だ。

「スープリ」や、その後のクラブイベントのトラック汚染、ゴミを散らかすギャルなどが、ギャルが社会の汚点としてメデイアに多く取り上げられてきた。この一部の人間によってつくられたマイナスイメージを払拭するため、04年当時の渋谷系サークルの代表を中心に自らの「不良ぶつるスタイル」を脱ぎ捨て、イメージ刷新を図り始めた。その効果はすぐに発揮され、渋谷の街頭でのボイ捨ては激減。そうした土壌もあり、各サークルが次のステップを求めるなか、具体的な結果を出したのが、最近の大学生ギャル男サークルだと思えます」

そして現在、彼らには「ボランティアはカッコいいというマインドが広がっている」とか。この流れはイケてる行為として今後も加速していきそうだ。